

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 040	提案機関名 農業技術センター
<b>要望問題名</b> 省力的な緑肥の処理方法（作業体系の検討）	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 環境保全型農業や有機農業においては、緑肥の活用が求められている。緑肥栽培時に雑草の発生を抑制し、かつ、土壌の物理性改善等を期待する場合、緑肥のバイオマス量は一定以上を確保する必要がある。しかし、バイオマス量が多いと、緑肥の処理に労力がかかり、後作に支障が出る。ヘアリーベッチは春期の生育が旺盛だが、すき込み時、トラクターによるハンマーナイフモアでの処理が必要であり、労力を要する。この点がヘアリーベッチの導入にあたり課題となっている。 そこで、緑肥のバイオマス量が多くても、後作に支障がなく、かつ、省力的な緑肥の処理方法を、作業体系の観点から検討いただきたい。  ※ 環境保全型農業直接支払い交付金 平成26年度神奈川県実績 カバークロップ 17ha 有機農業 39ha	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	① <input checked="" type="checkbox"/> 農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産技術部 野菜作物研究課
<b>対応区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合)	多様な担い手に対応するユニバーサル生産技術の開発		
<b>対応の内容等</b>	ヘアリーベッチは県内にも普及しはじめており、その抑草効果やすき込みによる土壌施用効果が認められています。すき込み作業では、10～20馬力程度のトラクターのロータリによるすき込み等の省力的作業体系も可能と考えられますので、平成28年度以降に試験を実施します。試験設計作成においては助言をお願いします。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			